

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度第 7 回諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 研修会について（公開）

① これまでの経過説明

② 講演 古川正美 氏「地域活動を通じた“これまでとこれから”の諏訪を語る」

③ 意見・情報交換

(2) 平成 29 年度「地域活動支援事業」の審査・採択等について（公開）

(3) 地域活動支援事業事前説明会の開催について（公開）

3 開催日時

平成 29 年 2 月 3 日（金） 午後 7 時から午後 9 時 40 分まで

4 開催場所

諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

1 名

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：石黒太一、内山恵悟、内山松男、川上奈津子、川上久雄（副会長）
滝沢隆行、武田輝夫、西嶋明子、星野一巳（会長）、松縄節子、
山岸 愛、山岸一之
- ・ 講 師：古川正美 氏（前諏訪区地域協議会長）
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【野口係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以

上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【星野会長】

- ・会議録の確認：滝澤委員に依頼

議題「(1)研修会について」に入る。「①これまでの経過説明」について事務局に説明を求める。

【野口係長】

- ・資料、別紙により説明

【星野会長】

さっそく研修に入る。講師の古川さんより願います。

【古川講師】

こんばんは。皆さんの顔を見て、協議会のことを懐かしく思い出します。先回予定していただいた11月については、私の方で急に都合がつかなくなってしまい、皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。今日は、皆さんとは限られた時間ですが、お耳を少し貸していただけたらと思います。

始めに、地域協議会は、延べ6年半ほど任に就かせていただき、地域活動支援事業については、この間の経験の中で皆さんにお話ししたいと思います。

次に、芳澤謙吉さんはどんな人だったかと他所の人に聞かれたときに、諏訪地区の中でも答えられる人は案外少ないということで、皆さんにご紹介したいと思い、皆さんのお手元に資料を用意しました。このような流れで進めていきますので、よろしく願います。

さて、平成24年度より自主的審議事項について審議してきました。その中で、諏訪の問題点は何かということをお話した中で、“少子化と人口減”が一番問題なのではないかということになりました。そういうことを将来に向けて勉強しようということで3か所の視察研修に行き、吉川区の方にも来ていただいたことを含めれば、計4回の視察研修を行ったこととなります。上越市は28区ありますが、その中で諏訪区が一番小さい区になります。時間が経ってみると、こんなに元気で良い地区は他にはなのではないかと思います。一方、諏訪のどこに良いところがあるのかとい

う人もいます。ですが、私は良いところが沢山あると今は感じています。そのような気持ちも含めながらお話ししたいと思います。

諏訪地区は、いざというときに、一致団結して何でもできる地区だと思います。特に、諏訪小学校を中心として地域全体での行事が豊富だと思っています。こんなに地域を挙げて行事をやっている区はないと思います。例えば、諏訪祭り、敬老会、体育大会に綱引きも…。毎年こんなに小さい地区から2チームも出して、結構良い成績を出しているのですから、こんなに積極的なところは本当にはないです。

それから、諏訪地区には「^{にかんじ}二貫寺の森」があって、ここでは視察や勉強会を行ったり、地域活動支援事業で用意していただいた“炭焼き機”も活用しています。

また、種々の研究会や勉強会があれば、介護施設もあります。諏訪小学校の他には諏訪保育園と児童館もありますから、こんなに揃っているところは他にありません。

それから、介護施設の中で、ふれあい福祉もやっている「いなほ園」と、同じ諏訪地区内の米岡には、「米岡の郷」ができて喜んでいる人がものすごく多いのです。

諏訪地区では、「諏訪の里づくり協議会」の内山会長や、吉崎さんや矢沢さんという方が中心となって、ふれあい福祉を盛んにやっておられます。ふれあい福祉に来るまでは、やっと歩けるようだった人も、手を使わなくてもどんどん歩けるようになる人が出てきたという話も聞いています。本当に効果がある事業を地域をあげてやっているんだと思っています。

それから、私が会長をしている「芳澤謙吉翁顕彰会」では、この小さい区の中に、日本の近代史の中で活躍した、世界に誇る外交官である芳澤謙吉がいたということは珍しいことで、この地域に住む者として本当に励みになると思います。

諏訪地区は、上越市の市街地へは車で10分程度で行ける場所ということで、立地もよく、挙げればきりが無いほど良いところがいっぱいあると感じます。これらの色々な良さを地域活動支援事業で作ってもらった、「くびき野諏訪ホームページ運営委員会」による「くびき野諏訪」のホームページにより、諏訪地区の良さを世界に発信できるということはすごい強みなんだと感じています。

諏訪地区にはこんなに良いものがあるのに、将来のことを考えてみると人口は減っています。人口の減少によって、色々なことを今後も継続してできるのかという

ことになる、やはりそれは難しいという問題があります。それで、4年前から少しでも人口を増やせないか、減らさないようにできないかを考えていくための勉強会を進めてきたところ。それが今後の課題だろうし、進めていくべきことだと考えています。

それから、我々が研修に行った地域については、委員のほとんどが参加しました。皆さんの手元には、その時の視察研修の報告資料があると思いますが、それには委員の感想が書いてあります。私自身、改めて読みなおしてみたいです。

平成25年度に十日町市の池谷集落に行った委員の報告の中で、「池谷集落では、若い人がリーダーとなって頑張っていた。若いリーダーの必要性を感じた」。「今回学んだことは危機感を持ってもっと取り組んだ方がよい」。「誰かが行動を起こすのを待っているのではなく、自分から積極的に行動することが必要である」。「何事もプラス思考で考えていくべきだということを学んだ」。「自主的審議事項について地域課題を皆で共有できるように情報発信の方法を工夫し、我々が中心となって課題解決のために後押しできるような土台を作れば、うまく進んでいけるのではないかと、帰りのバスの中で話し合ったことが書かれています。これは皆さんが心からそう思ったんだと思います。

次に、平成26年度に行った小千谷市上ノ山の「そなえ館」と長岡市川口中山の「きずな館」に行ったときの感想が書かれています。「若い人をいかにして地域活動に巻き込むか我々の大きな課題と考えている。若い世代は若い人で釣る。芋づる式につながっていくというようなことが印象に残った」と言われています。一番下には「薄れていた防災意識が蘇ったほか、被害を減らすための様々な気付きがあった」ということで、こういう危機感を持って色々なことをやってまとまっているんだと、皆さんで感じていました。

最後に、平成27年度に長野県の小布施町、中野市、信濃町に行ったんですが、その時の感想も次のように言ってもらっています。「『諏訪地区の魅力とは』と聞かれても答えられる人は少ないと思う」。「行政が行う事業に頼るのではなく、地域から動き始め、行政に協力を求めていく地域にしていきたい」。「『出る釘は打たれる』が、それでも出ることを諦めなかったら、成果に結び付いたということが印象に残った」という言葉が印象に残っています。「何事も新たな取組を行うときは、反対者も多い

ですが、それでもやり続けるエネルギーが必要だと思う」というようなことも感想で言っています。「地域づくりは、すぐに結果に結び付けることはではない。長い目で取り組むことが必要。『自分の孫が大人になった時、こんな地域になってほしい』と想像すると、楽しく地域づくりができるのではないか」。これは先を見て、将来のかたちを見て、「そうなった方が良いな」と感じたということです。一番下の「地域の移住者を増やすための1つのポイントは『人柄』だと感じた。優しい人、親切な人が多い地域に住みたいと思う人は多いはずなので、諏訪地区の良い面をアピールしていきたい」というような感想も載っています。

私もそうなのですが、研修に行ったときは、こういう前向きな気持ちになって、「もっと頑張った方がよいね」というふうに皆思うんです。けれども、時間が経つとそういうことを忘れてしまい、元に戻っていきやすいんだと思います。せっかくこういうことを自主的審議事項でやってきたということは、将来に向けて、こういうことをやっていったらよいんだということを、これからも続けていくことが必要だと思っています。それを、今の地域協議会の皆さんに自主的審議事項として継続して進めていただければと思います。実際、具体的にどういふふうに進めていけばよいのかについては、皆さんだけでやるのは大変なので、若い人は若い人を釣るとか、他の人も交えたりして。ひと声掛ければ参加してくれる人がいるというふうな意見もありました。そういうところにもう少し手を伸ばして誘っていったらよいのではないかと考えています。

先ほども話しましたが、諏訪地区にとって、これから必要なことは、人口をもう少し増やすことができれば良いと思っています。とにかく減らさないように、できたら増やしていけるような取組をしていかないといけないのだろうなと感じています。これは、私が地域協議会を離れてみて、なおさら強く感じるところです。私も、5年、10年先の自分は何をしているかなと考えたり、また地域がどうなっているかなと考えたりしています。今年も、去年も町内で何人も亡くなられた方がいるのを考えると、これは3年先くらいまでには何とかしなければいけないとか、本当に近い将来に何とかしなければいけないと気持ちになってきたんです。皆さんも同じようなことを感じているんだろうなとは思いますが、ここにおいで委員さんから、中心になって声を出していただきたいと思っています。諏訪地区の他の団体にはこ

ういうことを議論する場がないので、皆さんから言っていただいて、少しでも仲間を募って、声を大きくして何とか進めていただければありがたいと思っています。そういうことであれば、私も少しでもお手伝いできればと思っています。

地域協議会で4年間やってきた審議が、ここで止まるのではなく、一步、いや半歩でもよいので前に進めることは、諏訪地区の人は絶対できると思っています。色々な事業をやっている姿を見ていると、本当に皆さん一生懸命にやっつけらっしゃるし、私どもはやればできる地区に生まれ、そのかたちを今後つなげていければと思います。自主的審議事項については、この辺で終わりにしたいと思います。

次に、皆さんのお手元にも配りましたが、「芳澤さんはどういう人だったか」ということについて話していきたいと思っています。

まずは、資料の表紙に写真がいっぱい出ていますが、上越市出身の61人の偉人で、平成22年の市広報紙です。近代に活躍された人たちの写真とかが載っています。私は全部見たことがないのですが、61枚のパネルがあるそうです。この写真の右下の方に芳澤謙吉さんの写真が載っています。

次のページを見ていただくと、芳澤謙吉翁顕彰会が作成した年表があります。明治7年に生まれ、25歳のときに東京帝国大学に進学されて、その年に外交官の資格をとっていらっしゃいます。

明治38年の31歳のときに帰国し、犬養毅さんの長女である操さんと結婚します。次に、明治45年に明治天皇が亡くなられたときに、参列貴賓の接伴委員を務めています。

57歳のときに犬養毅内閣が成立し、58歳のときに外務大臣として入閣したということになっています。同年5月に五・一五事件が起こり、犬養毅が暗殺され犬養内閣が総辞職。

67歳のときに太平洋戦争が始まり、71歳のときに終戦を迎えています。8月7日には枢密顧問官に任ぜられ、8月15日に枢密顧問会議で「無条件降伏」で戦争が終わったということです。

74歳のときに妻の操さんが63歳で急死されますが、その前年に公職追放令により、責任を取り昭和21年4月から6年間、公職から追放され、その間は公務から離れています。

78歳の1952年、公職の追放から放たれた次の年に、中華民国、今の台湾の特命全権大使としてまた外交官になられています。

82歳のときに中華民国大使を終え、90歳で高田市名誉市民の第2号になられて、91歳で東京にて亡くなりました。

資料の次のページでは、「芳澤謙吉翁顕彰会の設立経過」についての説明です。

昭和33年3月に高田市の川澄市長が発起人になって、設立準備委員会ができました。その5月に理事会を開催し、川澄市長が会長、副会長に地元の寺田憲三さんがなられて会が発足しました。7月に「芳澤記念館設立協賛会」が発足して募金活動に入ります。篤志家、諸工場、上越の3郡、4市の小中学校、高校の生徒などから寄付があり、総額で150万円くらい集まったんです。東京では「芳澤中国記念事業財団」が創設されています。富士重工業株式会社の山本惣治さんが代表に就任され、85万円の寄付を集めていただきました。

次に、昭和34年9月に銅像ができて、除幕式を行っています。資料にも書いてありますが「当日は芳澤謙吉翁をはじめ、政財界、地元関係者等500名が出席し、大事業を祝福した。これに答えて翁は『昭和20年8月11日午前6時に宮中において終戦の御前会議の模様』をつぶさに講演されたときの会見のことをお話した」とあります。早朝6時ですから何を話されたのかはわかりませんが、「戦争はこれで止めますよ」ということを協議した場にいたということになります。

次に、昭和35年7月には、「米南荘」を東京の吉祥寺より移設しています。あの茶室は倉庫になっていたんですが、今は茶室として使わせてもらっています。

以上、芳澤さんがこんなことをされてきたんだということを簡単に話しましたが、もし外部の人に聞かれたときに、地域の皆さんからは、芳澤謙吉さんはこういう人だったんだというふうに話せたらよいのかなと思っています。芳澤謙吉翁顕彰会の会長をさせていただいてもらって、初めてこういうことが分かるようになったので、大きいことは言えないんですが、この地元から出た芳澤謙吉翁は偉大な方ですので、皆さんと同じように顕彰していきたいと思っていますので、これからもよろしくお願ひします。

お話はこのくらいにしておきます。

【野口係長】

ありがとうございました。1 つ是非ともお伺いしたいのですが、移住促進について、これまで地域協議会にて協議されてきたと思うんですが、今後の地域協議会ではどのように進めていったらよいか、アドバイスを頂けたらと思います。

【古川講師】

私は今まで研修で考えた中で、人口が減ることが問題だということで、移住者を促進し、人口を減らすことを止めて増やしたいということがありました。そのためには、現在、諏訪地区にある空き家・空き地等を利用したいと考えていました。今は市街化調整区域なんですけど、水道や下水道が通っている空きがあれば、開発費用はかかるけれども宅地化ができます。空き家については、そのまま住居として使えるので、こういう空き家があるということや、建物を建てられる土地があるということを外に発信することが必要だと思います。

それから、先ほど諏訪区の中には良いところがあると話しました。良いところがあることを発信していく。例えば、諏訪地区では夏にはこういうことをやっている、二貫寺というところではこういうことをやっているなど、我々地域では当たり前のことですが、これを外部に分かるように発信することが大事だと考えます。

先進地視察に行ってきたような内容を踏まえて、もっともっと地域でどういうことを進めていったらよいかを、プラスに考えていく。さらに移住者の立場になって、どういうことを知りたいのかを情報として出していく必要があります。そのためには、先ほどの「くびき野諏訪」のホームページを使って出していくのがいいと思います。

ただ、来てみて土地はあるし、空き家もあるが、誰か世話を焼いてくれる人はいらぬのかと言ったときに、そういう人がいないとまずいです。受け皿として、それをつくる必要があると思っています。大がかりなものでもなくてもよいので、そういう情報を集める組織、つなぎ役になる組織を立ち上げる必要があると思います。それは、3年、5年先の諏訪地区を考えたときに、それをしないと一歩前に進んだことにならないのかなと思います。そういうことを進めるためには、「地域活動支援事業」を活用する。今の市長がおられるうちはこの事業も続くと思っています。できればそういうチャンスに、支援する組織を作って、情報を外部に発信していくことが一番だと思っています。

【野口係長】

せっかくの機会なので、委員と古川さんとで意見交換をしていただけたらと思います。ご意見などのある方はいませんか。

【星野会長】

移住促進を今期のテーマにあげようということで決めたのは、前期で4年間やってきたことは無駄にしたくないという気持ちがあったからです。一番身近で困っていることは人口が欠けることで、何とか人口を増やす方策はないかということになり、同じテーマを自主的審議にしました。

そこで、これからも色々な情報を集めて検討していただろうと思いますが、最後に一番問題になるのは、具体的に進めてくれる組織をつくらないと空論に終わってしまうだろうと懸念する意見もありました。「いいね」と皆が言っているけど、実際に動いてくれる人がいないことには、情報を発信して誰に話をしたらいいのか、地域で世話を焼いてくれる人、キーマンがいなくなかなか話が進んでいかないのではないかと思います。私も前期では色々な所に研修に行かせてもらって、そこで一生懸命やっている人、熱意のある人のおかげで、移住につながっているのではないかとつくづく感じています。熱意さえあれば何でもできるということだとは思いますが、そういう組織をつくるということについて、具体的なアドバイスがあればお願いします。地域協議会は実際に動く組織ではない。こういうふうにやったら良いのではないかというような、考える集団というか、すでに色々な意見を述べる場所だと思っています。では、実際にやってくれるところはどこかとなれば、諏訪地区で言えば、例えば「諏訪の里づくり協議会」が動いてくれれば良いのですが、色々な活動をやっているのに難しいかなと思うところです。その辺について、アドバイスをお願いします。

【古川講師】

星野会長の言われるとおりだと思います。ここにいらっしゃる地域協議会の方は事業を実行する会ではないので無理ですが、1人という個人に返ったときには、別の会もやるということができると思います。

ただ、地域協議会で今まで研修され、勉強してきたわけなので、これを生かすのはここにいらっしゃる方々だと思います。皆さんが中心となって他の人をつないで

いくことが一番良いスタートなのかと思っています。「私たちは考える集団だから関係ないんだ」と言ったら、一番勉強している人が外れるということになってしまいます。この協議会とは別に、もう1つの組織というかたちを作って、「よしやってみよう」と参加することが本当の姿だと思っています。

そういうことであれば、協力できる人が出てくるだろうと思います。皆さん以外の人に「やってくれ」と言ったら、丸投げになってしまい、恐らくやろうとするこの意味が全然分からないから、勉強することから始めるとなると、振り出しに戻ってしまうのではないかと思っています。

【内山恵悟委員】

うちの地域でも結婚すれば他の地域に出ていってしまっています。親との同居が上手くいかないのか、どうして出ていくのかなと思います。昔は、長男は跡を取るということで家に残ったけれども、今は残らなくてよいという流れが一般的なのかなあとと思っています。そういう環境の中で若い人がどんどん減っていくと、地域が衰退していく。そんな中で、どうしたらよいのか、若い人たちの考えはどうなのかなということも我々は考えていかなければならないのかなと思います。

さっき、結婚したら云々と言いましたけど、今そんなことを言うとハラスメントだとか、余計な心配しなくてよいだとかという話になってしまい、結局、何も言えなくなってしまう。そういうことだと地域の中も上手くいかないのかなと思っています。

【古川講師】

これは、諏訪区だけのことでなく、直江津や高田に住んでいる人たちも、皆、若い人たちは新興住宅地に移り住んでいます。お父さん、お母さんと一緒に住まないで、結果、町がガランと空いてきているのが現実です。今生きている人間がこの調子でいったら、諏訪地区の人も半分になって、さらに減って行って、何も協働できない地域になるんだと思っています。移住促進の話を他でしたら、「お前、何を言っているんだ。勝手にやりなさい」で話が終わってしまうでしょう。でも、この諏訪地区はものすごくまとまりがあるんです。これは、「諏訪の里づくり協議会」が今までに色んな事業をやってきたことが、ものすごく土台になっているんです。「諏訪の里づくり協議会」にこれをやっていただければよいのかもしれないんですが、

今の事業の上に、こういうものもやるとなると大変なんだろうと思います。これは、地域の皆さんから認知してもらうことも必要なんですが、ここにいる専門のチームの皆さん方がやるのが一番よいのだと思っています。

先ほど内山委員が言っていた、「外へ出て行ってしまおう」というのは本当の話なんですけど、今、この地域に居る者だけでも「少しでも一歩前に進めるように頑張ろう」というプラスの考えをしていかないとダメなんです。

私も仕事をやっていますが、「この仕事を請け負ったからいつまでに終わらせる」となったときに、「都合が悪い」と皆の意見を聞いていたら仕事ができなくなってしまふ。「それで良いのか」と私は話をしたことがあります。「その仕事を請け負って、期日までに約束をしているのだから、皆で力を合わせよう」と。こんなふうに、皆が自分のことを言っていたら、仕事はできないと思います。「皆はここで何のために働いているのか」と聞きました。「家族のため」、「子どもを育てていくため」、「これから年寄と暮らしていくため」というわけで働いているんです。それを考えたときに、仕事を休みたいとは思いますが、皆と一緒に休んだら仕事ができなくなる。そういうことを考えると、プラス思考で「何とかしよう」という気持ちが強くないと仕事はできないんです。

それで、我々は研修に行ったときの感想にもありましたが、一歩前に出て進む力、人がどうこう言おうとやり通す力がないとできないんだというところが一番大事なんだと思います。人数が少ないからできないのではなく、少なくともその中の何人かがまとまればできる。これは、本当に自分のやりたいことと、やりたくないことの線引きをしてしまうとできません。仕事とは別に、地域のためにやろうと決めたら、それに対して皆がどれだけ力を合わせられるかどうかだと思っています。

皆の気持ちに寄り添うことが大事で、それができないと種も何もない、ただの組織になって空中分解して終わるだろうなと思っています。自分たちがこの地区を少しでも守っていくという気持ちがどれだけ強いかという問題だと思います。

そうは言うものの、現実はなかなか厳しいです。けれども、大きい所帯を作るのではなく、小さい所帯からでよいので組織を作って進めていければと思っています。

【滝澤委員】

私は、直江津から婿で諏訪地区へ越して来ました。「諏訪の里づくり協議会」は、

大体どのくらい前からできて活動をされているのかを教えてください。また、「諏訪の里づくり協議会」を通じて、どれだけ皆さんがどんなふうに動きが変わってきているのでしょうか。

【古川講師】

先ほど、諏訪地区はすごくまとまりがよく、色んな事業をやっていると言いましたが、これは他の地区に行ってみて初めて分かります。去年は芳澤さんの話をしに高士区に行きました。高士区も我々と同じくらい頑張っている地区なので、まとっています。ただ、この近くにある他の地区にも公民館活動で呼ばれて話に行きましたが、集まったのは3人と事務局が3人の6人だけでした。質問の内容や、話す内容も「芳澤さんの公園は交通の便が悪くて人があまり来ないよね」とか、マイナスのことしか言っていませんでした。

「諏訪の里づくり協議会」のスタート時期は私も知らないんですが、もうずっと前からあって、色んな事業を「諏訪の里づくり協議会」が中心になって行っています。その中にはPTAも入っているし、婦人会も入っているし、色んな会が全部入っていて、諏訪地区の全部の集まりです。

他の地区ではやっていないことをやっていて、ものすごい実績があります。三郷地区や大和地区に聞いてみても、そんな事業はやっていません。一昨年にホームページができましたが、皆さん「凄いね」と驚いていました。他の地区ではやっていないことを、小さい諏訪地区ではやっています。諏訪地区は当たり前ではなくて、他と違い“元気”でやっているんだと思っています。皆さんに話しかけたときも、マイナスの意見はほとんど出てこないけど、他の地区に行くと「これがあるからできない。これが邪魔だからできない。」といった意見がたくさん出てくる。そうすると、そこで事業を起こすのは大変なんだろうなと思います。でも、諏訪地区だと、地域協議会の研修会にもほとんどの方に参加してもらって行ってきました。帰りのバスの中でも積極的な意見をどんどん出してもらって、こういうふうに行った方がいいということが見えてくるんです。諏訪地区はこういうことができる土壌があると思っています。

ただ、組織の立ち上げ方や、立ち上げるメンバーは大切です。皆さん、引っ込み思案なので、一歩前へ出て、参加してもらえればよいと思っています。

【石黒委員】

空き家、空き地を調査する必要もあると思いますが、田んぼや畑をやる人も少なくなってきたので、畑などを貸すなども考えた方がよいと思っています。ただ、移住してもらっただけではなくて、田んぼや畑の利用方法も含めて考えていけばよいと思います。

【古川講師】

当然、そうだと思います。移住してくる人は若い人とは限らないので、少し年配で定年間近の人や、定年になった人がくる可能性もあります。そういった人たちを断ることもありません。そういう人たちが来れば、後々若い人たちも一緒に来るとも考えられます。色んな人が来ると考えられるので、田んぼや畑ができるように情報の発信も必要だと思います。ただ、一番問題なのは職場。職場をどういうふうに確保するか。住んでもらっても働くところがないと若い人たちは来られないということになります。地域でできることはやるけれど、職場の確保については難しいところがあります。上越市自体に働く場所がどのくらいあるかがまず疑問ですが、その辺も含めて、これからの課題だなと思っています。

どんなこともやるということであればできるんです。テレビでやっていましたけど、山に住んでいて自給自足で食べている人もいくらでもいる。ただ、子どもたちを学校まで送るのが大変だと言っていたけれども、それだけの覚悟を持って来る人と、ここに来れば何でもあるというような通り一遍で来る人とは、全然考えが違います。ここにあるものを見てもらうことができ、それを見た人が判断して来るはずで、その辺のところを世話をする人が発信したものをどの程度見せられるかだと思います。

【石黒委員】

諏訪地区の中では色々やっていて素晴らしいことだと思うんですが、自分の町内に帰った時に、町内にはそういった活気が無いんです。私の働きかけが良くないのかもしれませんが、町内会長になってから家にいる機会が多いんですが、近所でお茶のみをしたりする場がほとんどありません。そういう横のつながりが町内の中でも薄れてきているんじゃないかと思っています。プライバシーの問題もあるけれども、お互いを知ろうとしないで、横のつながりがなくなっている気がします。私は、町

内の中で皆さんが少しでも集まれる場を提供していくようなかたちで考えているんですが、古川さんのお住まいの鶴町ではどのような形で努力されているのでしょうか。

【古川講師】

全く、その通りだと思います。町内ごとに、移住促進ができるかと言ったときに、諏訪地区には11町内会があって、その各町内に受け皿を1つずつ作るかと言えませんが、全体の中でこういう受け皿をかたちを作って決める。どこの地域、どこの土地が一番良いかは、発信したのを見た人が選ぶ。職場については、最近ではインターネットで仕事をする人も大分増えてきたということもあるし、家さえあれば仕事があるという人もいるという話を聞くようになった。そういう人であれば職場の心配はしなくてもよいけれど、つながりが無くなってきたことは事実です。それだから、なおさら子どもたちが新興住宅地へ出て行っているというところもあると思います。こんなふうに、悪いことが重なってきているように思っています。

それでも、諏訪地区は、大変だけど事業をやっているということは、必要と感じて参加する人が大勢いるんだと思っています。ただ、1人1人に声を掛けることができればいいんですが、出たくない人にわざわざ声を掛けることもしていないのもあると思います。これからは、お婆ちゃん1人やお爺ちゃん1人の世帯も増えてくると思うので、積極的に声を掛けて、施設に通ってもらったり、もし、歩けるんだったら「ふれあい福祉」サロンにきてもらおう。ここに来られる人は、結構賑やかに、楽しんで帰られて、また喜んで来られると聞いていますが、そういうことも参加してみて初めて分かる部分もあると思います。でも、1人になってしまって、そのまま声を掛けずに構わないでいたら大変なことになるだろうなというふうに私は思います。うちの祖母ちゃんも91歳ですが、米岡の在宅生活をしていて支援が必要な高齢者向けの「光寿の家」ができるまでは、家で椅子に腰かけて外を通る車を数えていて、何も動かなかったです。でも「光寿の家」ができて、毎日のように行くようになったら、気持ちも元気になって、足も元気になって、押し車を押して歩くようになりました。迎えが来ると喜んで出掛けて行くし、ゲームをしたり、運動させてもらおうと元気になって帰って来て、家でも笑っているし、喜んでいます。それも、参加してみて初めてわかることです。確かに、さっきの話でお茶のみをしなくなっ

たと言っていました。今はテレビ見ていれば不自由しないし、家に居れば何でも飲めるし、人と話しをしなくても色んなことができる時代になってしまった。けれども、1人で住んでいる人については、これから心配なので、声を掛け合ったり配慮するような地域じゃないと駄目だと思っています。どこまでできるかは分からないんですが、地域でそういうかたちができる、枝や葉っぱが出てくるのかと思っています。

【星野会長】

古川さん、ありがとうございました。時間の都合もあり、また改めて意見交換ができる場があったらよいと思っていますので、その際はよろしくお願いします。今ほどのご意見を、今後の自主的審議の進め方や、地域活動支援事業の審査、採択に大いに役立たせていただきたいと思います。これで、研修会を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

ここで、休憩を挟みます。

— 休憩 —

【星野会長】

会議を再開する。

議題「(2)平成29年度『地域活動支援事業』の審査・採択について」事務局に説明を求める。

【野口係長】

・参考資料、資料No.1-1、資料No.1-2、資料No.1-3により説明

【星野会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

資料No.1-1について上から順番に確認していく。

「事業採択までの流れ」について、今までの流れでよいか。

【内山松男委員】

平成28年度は、ヒアリングしてから各自持ち帰って採点した。こうすると採択が約1か月遅くなってしまう。従前のおり、終了時間は若干遅くなるが、ヒアリングと同日に採点して、審査・採択までの結論を出した方がよいと思う。ヒアリング

から採択決定まで時間が掛かると、事業を進めたくても不採択になった時のことを考えて安心して事業着手できず、保留になったこともあったからだ。

【星野会長】

ヒアリング当日に採点して、そこで決めた方がよいということだが、どうか。

【川上副会長】

委員改選前の審査の流れが分からないのだが、その方法でスムーズに行くのかどうか、問題なく終わるのか。

【内山松男委員】

午後 9 時前には終わった。

今年度は、配分額の 480 万円の約半分を使い切るような提案が出てきて困った。こうなると、他の提案団体が困るので、事前に提案者同士でお互いに全体配分額の中で、各々の補助希望額の調整を図ることが大事だと思う。

【山岸 愛委員】

平成 27 年度はそういう調整は行ったのか。

【内山松男委員】

今までは行っていない。

【星野会長】

極論だが、1 つの提案で残りの事業がゼロになるような提案を出されても困るので、他の提案者のことも考えて、事前調整したらどうかという意見でよいか。

【山岸一之委員】

あまりにかけ離れたような金額の提案が出された場合は、事前に提案書を出された際に「どうしてこのような金額を出されたのか」と聴く必要があると思う。今年度の AED 整備のケースは例外なので、今後はそういうことはないと思うが、意見を聴くのも必要かと思う。

【星野会長】

今年度は極端な提案が出てきた感じはするが、今後は出てこないとも限らない。仮に事前協議を行うとして、提案のとりまとめの際に我々が主体となって調整をするかどうかだということになってくるかと思う。出された提案書は、とりあえず受け付けようということで、1 次募集では少しでも多くの皆さんからご提案をいただ

くためにも、そこで制約をすると出にくくなる気もするが、どうか。

【野口係長】

提案は幅広く受け付けて、採点の結果によって自然と順位化されてくると考えているが、それでどうか。

【川上副会長】

会長が言われたとおりだと思う。皆さん良いと思って提案されるので、事前調整というのもおかしな気もするし、これまでの積み重ねから、諏訪区内の団体がどの程度欲しいかは大体分かる。「諏訪の里づくり協議会」へは、毎年予算配分する必要があるのは、皆さんも承知の上なので、配分額ギリギリの提案が出てきても、皆さんがそれを優先的に採点して採択するということはまずないと思うので、そこまでする心配はないと思う。過去は提案が無くて困って、追加募集して調整したことがあると聞いているし、提案の段階でそこまで制限しなくてよいと思うがどうか。

【星野会長】

私は、事前に調整することが決して悪いことではないが、それをすると自由な提案が出てこないのではないかという懸念がある。条件は1年毎に変えてもよいということだし、今年度のような高額な提案は出てこないと思う。もし出てきても補助率のところで引っ掛かってくるので、皆さんから意見を出して審査いただければ、その辺は解決できると思うが、いかがか。

【武田委員】

会長のおっしゃるとおりでよい。

【西嶋委員】

できるだけ多くの方々に諏訪地区のことを考えた提案を出していただけるようであれば、範囲内でよい様になることが出来ればよいので、委員で判断すればよいと思う。配分額がどのくらい余るかを考えて、提案団体も考えられるかと思う。

【山岸 愛委員】

補助金の限度額について、“下限は5万円”と決まっているが、上限は決まっていない。AED整備の提案は210万6千円で、全体の半分になってしまうのであれば、上限を決めてしまえばよいのではないか。

【星野会長】

今までは、“上限なし”ということだったが、上限を決めたらどうかというご意見だったが、それはこれから検討していきたいと思う。ただ、これにより内山松男委員が心配している高額な提案になって、他の事業ができなくなる恐れは多少軽減されると思う。

【武田委員】

会長・副会長の意見に賛成だが、予算の範囲内で提案を持って来られ、協議会委員でチェックして審査するので、上限云々の話はなしでよいと思う。

【星野会長】

順番に上から進めていきたいと思う。今の話は「補助金の限度額」のところをしたいと思う。「事業採択までの流れ」については、これでよいか。

（「よし」の声）

【山田センター長】

参考までに、過去の1日でこなす審査等のやり方を説明すると、ヒアリングの後に皆さんから採点をしていただく。その場で事務局がパソコンで集計し、画面を映し出しながら委員が採点結果を確認する。この方法は、諏訪区では提案団体が比較的少数なので可能だ。

【星野会長】

平成28年度は自宅で採点していただいたが、それまではヒアリング後すぐに採点し、採択か不採択かの決定をしていた。今までの流れからすると、提案がたくさん出て、時間が掛かり過ぎて採点できなかったということはなかった。個人的には、当日採点して、即採択というのも時間的には何とかなると感じてきたところだが、いかがか。

【武田委員】

それは、提案数を見てからでよいと思う。少なければその場でやってしまえばよい。夜の9時を過ぎるとなれば、お勤めされている方が大変なので。

【星野会長】

1日でヒアリングと採点、審査・採択を行うか否かは、提案の数を見てから検討するというのでよいか。

（「よし」の声）

続いて、「1. 基本的事項」の「採択方針」は、先ほどの事務局からの説明で、優先して採択する事業のところに昨年実施した第4回の会議録からの意見で「他区に発信する事業」を加えてみるのも1つだという話があったがどうか。

【内山松男委員】

今まで、農業に関する提案は出ていないので、事前説明会に農業に関係する人を呼んだらどうか。「あなた方は補助金をいっぱい貰って事業をやっているけれど、田んぼのことだってあるんだよ」と皮肉を言ってくる人もいる。そういう人たちからなぜ提案が出て来ないのかというのものもあるし、提案しにくくて出ないのかもしれないので、考えてみたらよいのではないかと思う。説明会に出てもらって平等にやったらよいと思う。

【星野会長】

「“農業振興事業”を優先して採択します」と書いてあるので、是非、提案を出していただきたいが、出し方の問題や方法をこちらからも働きかけをしたり、相談にのったりすることも必要かもしれない。

【松縄委員】

農業振興事業とは、例えばどんなことなのか。

【内山松男委員】

農家組合があるので「もっと農業が振興して若い人も一緒にやれるのか」などの研修したいテーマがあれば、研修したり、勉強したいものがあれば提案すればよいと思う。ただ、提案書を書くのが面倒だったり、出しにくかったり、考えるのが面倒だったりして提案が出てこないのかは分からない。

【星野会長】

農業振興事業については、今まで1件も出ていないと思う。

【内山松男委員】

告知はしているが、説明会に来ないだけだ。

【山岸 愛委員】

何に補助金をもらったらよいのか分からないのかもしれない。

【松縄委員】

農業に関する提案が出てくれば、金額がかさむかなと思う。

【内山松男委員】

新潟市の法人でうまく事業をやっているところがあり、参考にしたければ、そういう所に研修に行くなどすればよい。

【星野会長】

防災士会で柏崎刈羽原発などを視察したように、農業関係の視察や講師を呼ぶなども農業振興事業になると思う。

【武田委員】

広報上越でしか事前説明会のお知らせはしないのか。

【星野会長】

広報と併せて世帯に1枚ずつ事前説明会の開催チラシを配る。また、有線放送でもお知らせしている。さらに、活動団体の長への声かけも必要かと思う。

【内山松男委員】

地域協議会だよりを広報上越に1枚ずつ挟んで配布したが、意外と見ない。世帯主が見て、次のお宅に回してしまい、奥さん方は知らないようだ。この間、女性の方が「うちは知らない」という話が結構出ていた。

【山岸 愛委員】

うちでは、父親が見て、新聞と一緒にそのままゴミにポイだ。

【武田委員】

事前説明会はPRするのによい機会なので、声掛けすれば広がっていくのではないかな。

【星野会長】

チラシは全戸配布される。あとは皆さんから口コミで説明をしていただければよいと思う。

【武田委員】

協議会委員が回ってもよいのか。

【星野会長】

「提案書を出してください」と言うのはよい。

【松縄委員】

農家組合にはJAがついているのか。

【内山松男委員】

JAに地区は関係ない。農家組合は諏訪地区の会だ。

【松縄委員】

女性も入ってよいのかと思って聞いた。

【内山松男委員】

JA女性部というものがある。

【星野会長】

組織がどうあろうと女性が農業について提案することは可能だ。

【内山松男委員】

規約がなければ、農家組合の規約を借りて、そこから一緒に出してもらうこともできる。

【星野会長】

「外に発信する事業」についてはどうか。

【山岸 愛委員】

これは、昨年私が発言したものだと思うが、農業云々ではなく、「採択方針」の「優先して採択する事業」の中に、今まで入っていなかった「諏訪地区以外の人を呼び込むための行事に対する補助金を優先していただけるかどうか」ということだったと思う。まず、諏訪地区を盛り上げなければいけないのに、諏訪地区以外の人を呼ぶのにお金なんて払えないということもあると思うので、簡単に、優先採択事業に入れるというのは、すぐには難しいと感じている。来年度にこれをすぐに入れてほしいとは正直思っていない。ただ、新しい人たちが諏訪地区に住んでもいいな、と思えるように事業としては、内々だけでやるのではなく諏訪地区自体に興味を持ってもらう活動のために補助金を使うことは必要になってくると思う。だが、限られた配分額の中なので、来年度の優先する事業に入れなくてもよいと思う。

【星野会長】

平成 29 年度は入れなくてもよいという意見だった。ただ、ホームページを作成した過年度の事業があるが、それは他の地区に発信している。特に優先するかしないかではなく、良いものは採択されてきたので、ここに入れなくても、皆さんの常識の範囲で審査され採択されると思う。無理してここに入れなくてもよいと思うが、

いかがか。

(「よし」の声)

優先して採択する事業に入れなくてよいということで決まった。その他に、追加した方がよいとか、無くてよいという意見はあるか。

(「なし」の声)

では、平成 28 年度と同様でよいという方は拍手をお願いします。

— 拍手 —

それでは平成 28 年度と同様とする。

「補助率」については“10 分の 10 以内”となっているが、平成 28 年度と同様でよいか。

(「よし」の声)

「補助金の限度額」について、“上限はなし、下限が 5 万円”になっている。先ほど意見が 2 つあったが、上限を設ける必要はないという意見と、上限を設けたらどうかという意見があったが、これについて委員に意見を求める。

【内山恵悟委員】

補助率で減額することができるのならば、“上限はなし”でよいのではないか。

【山岸 愛委員】

よいと思う。仮に 400 万円の配分額のうち、400 万円の提案がきても、審査・採択の過程で減額できるのでよいと思う。

【星野会長】

“上限はなし”でよいということだが、“下限は 5 万円”についてはどうか。

【滝澤委員】

事前に提案者の同士での打ち合わせがあったらよいと思う。提案者同士で申し合わせをして考えてもらい、事前に調整して金額を修正してから、提案を出してもらったらどうか。

【星野会長】

先ほども、事前調整をしたらどうかという話がでたが、どの程度どの団体がでてくるかというのは、締め切り間近にならないと分からない。

【武田委員】

提案は自由なものなのだから、そういう制限を設けない方がよい。

【内山松男委員】

例えば、全部の提案の補助希望額が高かったら、優先順位で点数の高い順から採択となったらどうするのか。

【滝澤委員】

常識を持って考えて動いてくれればよいが、大きい金額の提案で、他の団体が遠慮して出さなくなってしまうのはどうかと思う。

【武田委員】

そのために審査をするのであって、そうしたら趣旨から逸れてしまう。

【滝澤委員】

最終的に審査をするのは我々だが、AED 整備の提案については、横のつながりがなくて、ここでもめたからだ。

【星野会長】

それについては、防災士会という組織内部での打ち合わせが十分でなく、ごく一部の人による提案だったので特殊な例だった。滝澤委員は、多くの人から提案を出してもらいたいとの気持ちから意見を言ったのだと思う。だが、そこをあまり制限してしまうと、声の大きい人、声の小さい人で事業が左右されてしまうことにもつながりかねないので、あまり制約は設けない方がよい気がする。思案のしどころだが皆さんいかがか。

【武田委員】

極端な話、480 万円という限度額すら考えないくらいの勢いで提案してもらった方がよいのではないか。その中で、我々が審査して 480 万円に収める。そういう世界である。

【内山松男委員】

今までは少し調整してきたのではないか。

【星野会長】

例えば、配分額が 480 万円であれば、1 提案で 480 万円をとろうとする団体は、今までも今後も無いのではないかと思う。この諏訪地区で、皆で平等に、少しずつ地域を活性化させていこうという気持ちの人がほとんどである。いっても半分くら

いが常識の範囲内だと思うので、そういう提案を期待したいと思う。滝澤委員の考えは、多くの方から提案いただきながらその時になってダメだと言われるよりは、事前に調整した方がよいという親心からだと思う。

【内山松男委員】

私の「諏訪の里づくり協議会」も希望額が150万円程で高い方なので、大丈夫かどうか確認してから提案書を出していた。

【星野会長】

提案書を出した後で、どうしてもオーバーした場合は、少し減額の検討の余地はないかどうかということは今までもやってきた。なので、出す前から調整し過ぎるのもどうかとは思っている。時間の都合もあるし、色々な意見もあると思うが、「限度額」については“平成28年度と同様”ということではいかかがか。

（「よし」の声）

特に異議がなければ、これで決めさせていただく。

次に「ヒアリング」について、意見を求める。

【内山松男委員】

一応全員来てもらった方がよいのではないかな。

【山岸 愛委員】

全員に来てもらうのもよいが、多かったら時間がない。

【内山松男委員】

時間が無かったら、無いでよい。これまで9時頃までには終わっていた。

【星野会長】

来年度はどの程度提案が出るかどうかは分からないが、全員ヒアリングしたらどうかと言う意見が出たがどうか。意見を求める。

【松縄委員】

全員の人の意見も聞きたいので、よいのだが時間が短くなってしまわないか。

【内山松男委員】

意見が出なければ出ないで、終わったら帰ってもらえばよい。

【武田委員】

質問があるから長くなるわけで、それは問題ないのではないか。

【星野会長】

どの程度出てくるかだが、今までの提案数は15件くらい。5分ずつでも75分だが、質問等の時間も含めるとその倍になるので、2時間30分だ。だが、その場合はヒアリング当日で採点は難しいと思うので、自宅で採点するかたちになる。

平成29年度は、“全員ヒアリングを行う”というかたちでいかがか。

（「よい」の声）

それでは、“全員ヒアリングを行う”ことにする。

次に「基本審査判定」については、“平成28年度と同様”でよいか。

【内山松男委員】

「採択方針」のところで、1人が不適合にしたなら不採択になった時があったので、9人ではなく1人だと思う。

【野口係長】

ここに1人だけが不適合と判断した場合に、不採択になったという事例はあり得ない。

【星野会長】

最終的に不採択になったかもしれないが、基本審査で1人だけが不適合を付けて、自動的に不採択になることは、まずあり得ないと思う。

【滝澤委員】

今までは、当日採点の後、すぐにここでパソコンの画面を映し出して集計結果を示していた。最初の段階で不採択になるくらい的人数がチェックを入れていたので、それ相応の人数が不適合にしたのだと思う。

【内山松男委員】

分かった。話を最初に戻してほしい。

【星野会長】

それでは、平成28年度と同様でよいか。

（「よし」の声）

次に「採択方針への適合判定」について“平成28年と同様”でよいか。

（「よし」の声）

次に「共通審査基準の項目と配点」と「順位付けの方法」と「委員が提案団体の代表者である場合」について、変更や付け足しなどがあれば、意見を求める。

(発言なし)

それではこの3項目については、“平成28年と同様”でよいか。

(「よし」の声)

皆さんから審議していただいたが、最終的には昨年度と同様となったがよいか。

(「よし」の声)

次に「募集期間」だが、4月1日が土曜日なので、4月3日の月曜日から4月28日の金曜日まででいかがかと思うが、意見を求める。

【内山松男委員】

「諏訪の里づくり協議会」の総会が4月20日前後だ。そこで年間行事計画と委員の組織が決定されるので、日程的には厳しいが、その期間でやれということになれば、何とかするしかない。

【内山恵悟委員】

募集期間は、上越市全体なのか。

【星野会長】

区によって変えてもよい。ただ、採択されるまで事業着手できないで困るという団体もいるので、なるべく早めに採択結果をお知らせした方がよいというところだ。4月20日に総会となれば時間はないが、時間があつたらあつたで余裕を持ってしまうので、できれば4月中に結論を出した方が、実際に活動する団体にはよいと思う。

では、“4月28日の金曜日まで”でいかがか。

(「よし」の声)

それでは、募集期間は“4月3日の月曜日から4月28日の金曜日まで”で決定した。

次に「(3) 地域活動支援事業事前説明会の開催について」事務局に説明を求める。

【野口係長】

・資料No.2により説明

【星野会長】

今の説明について質疑を求める。

(発言なし)

では、日程について決めたいと思う。正副会長の腹案としては、3月1日か3月8日のどちらかでいかがかと思っている。なるべく早い日がよいと思うので、3月1日の午後7時からでいかがか。

(「よい」の声)

地域活動支援事業について発表していただきたいが、どなたかやってくれる方はいるか。ちなみに、前は私と松縄委員で行った。今回は新しい委員から、協議会の感想や活動内容の報告をしていただければと思う。

— 発表者の調整 —

【星野会長】

それでは、山岸 愛委員にお願いします。

その他、事務局に説明を求める。

【野口係長】

・次回の協議会について説明

【星野会長】

3月27日か28日に本日の研修の振り返りを行い、会議を早めに切り上げて、その後、懇親会を設けたいと思っている。

— 日程調整 —

・次回の協議会：3月27日（月）午後7時から 諏訪地区公民館

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部自治・地域振興課中部まちづくりセンター

TEL：025-526-5111（内線1449、1547）

E-mail:chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。